

中島としかつ政治活動報告 第6号

令和5年9月議会 一般質問

1. 町民の情報共有のためのLINE、メールの登録推進と連絡網の整備

災害時、緊急時に大切なのは情報の伝達と共有である。時々刻々、状況が変化中、一斉に情報を伝え、共有するものとして、LINE、メールが使われている。情報網だけでも整備しておけば、いざというときの混乱と不安も軽減できる。高齢者でもスマホを持っている人が多い中、登録推進すべき。

2. 訪問入浴サービスの事業者撤退に伴う介護サービスの提供体制の確保

事業者の撤退があっても、保険あって給付無しではなく、介護サービスの提供体制の整備をするのが自治体の義務。今の高齢世代は、どん底から日本を再興してくれた恩義ある世代であり、希望に応じて在宅で最後まで過ごしていただくために努力すべき。例えば、来てくれる事業所に割増加算を付ける、あるいは、町内か近隣の介護事業所にインセンティブを付けるなどをして、訪問入浴サービスをしてもらえるよう手立てはないか。

3. 新型コロナのワクチン接種の政策において自治体としてできること

世界で日本だけ追加接種をしているが、打てば打つほど感染し、重症化も若い世代はほぼ0%である中、局面は、ワクチンの副作用による後遺症、死亡が表面化している。厚労省の副反応審議会では、2千件を超える死亡者と予防接種健康被害救済制度の認定結果として、累計3,810人の認定があり、そのうち156人については、死亡一時金の認定を受け、いまだ4,000人以上の申請が審査未処理で増え続けている。津幡町の昨年の死亡者数と救急搬送人数は過去最高の異常な増加をしている。



質問

- 1) 昨年の津幡町の死亡者数の異常な増加の原因は、なんでであると捉えているか。
- 2) 町内でワクチンによる副反応は何件あるか。死亡、重篤、重症、軽症の内訳は？
- 3) 町内で予防接種健康被害救済制度の相談は、何件？結果は？
- 4) 名古屋市では、この事態に、「なごや新型コロナウイルスワクチン長期的な副反応相談窓口」を設置し、自治体独自でワクチン接種にかかる健康被害救済申請支援制度を始めている。国への申請の支援や文書代の補助など。大阪府泉大津市もやっている。津幡町で同様の制度を設けるように検討いただけないか。

再質問

命に関わるようなリスクのあることは、マイナスのことも含めて本人が自分で判断できる材料を提供すべきではないか。津幡町でも他自治体の先駆けている事例について目を光らせ、わが町の町民の命を最優先にした施策に取り組んでいただきたい。

議会の動画はこちらのQRから。4:09分～



LGBT法の慎重な運用を求める意見書はこちら ⇒



今回のワクチンについては、以下のサイトを判断材料にしてみてください。

東北医師有志の会

泉大津市市長からのメッセージ



中島としかつ関係のイベントスケジュール

10月6日(金)19:00～	タウンミーティング内灘町	内灘町文化会館	内灘町大清水140	無料
10月11日(水)19:00～	政治報告会&参政党紹介※	英田公民館	津幡町能瀬井36	無料
10月13日(金)19:00～		津幡町文化会館 シグナス	津幡町北中条3丁目1	
10月14日(土)19:00～		井上公民館	津幡町川尻レ7番地1	
10月16日(月)19:00～		糸南公民館	津幡町字太田ろ3	
10月19日(金)18:30～	鈴木宜弘氏 講演会	津幡町文化会館 シグナス	津幡町北中条3丁目1	有料



ホームページ としかつ日記



発行：石川県河北郡津幡町字川尻夕37
中島 敏勝

メール：nakashima.toshi.ouendan@gmail.com

※政治報告会と参政党紹介は同じ内容を予定しています。参加しやすいところへお気軽にどうぞ。

